

境界

2025. 2. 20

ある宇宙飛行士が、次の言葉を残している。

宇宙から見る地球には、地球儀に書いてあるような国境はなかった。

この言葉は、何を意味しているのか。私たちの地球には、本来、国境はなかった。そこに、我々が国家を生み出すことによって境界を作り上げた。その境界によって、自国と敵国という対立を生み出し、争いと苦しみを生み出している。おおよそ、このようなことだろうか。

この言葉を深く見つめるとき、我々は、この国境という境界の奥深くに、もう一つの境界が存在していることに気がつく。我々の心には、本来、境界はなかった。そこに我々が自我を生み出すことによって、境界を作り上げ、その境界によって、自己と他者という対立を生み出し、争いと苦しみを生み出している

考えてみると、世の中は、この境界だらけである。逆に、境界がなくなると、どうになってしまうのか。組織や集団も、境界の一つである。同じ組織の部署やチームも境界である。人は、境界があると、どうも張り合う習性がある。競い合う傾向がある。同じ組織であれば、部署同士を張り合わせることで、効果が上がるということもあるだろう。

人は、なぜ張り合うのか。自分のほうが上にいたいという欲求のようなものだろうか。少しでもよく見られたいという思いだろうか。縄張り意識もあるかもしれない。自分の縄張りには入ってきてほしくないという防衛本能のようなものがあるのだろうか。縄張りがないと安心できないのかもしれない。誰にでも、自分の居場所が必要である。

普段は、境界があってもよしとする。この境界が、なくなることがある。それは、“非常時”である。日頃是对立関係にあっても、呉越同舟ではないが、共通の目的に向かって一つにまとまることがある。それは、歴史が証明している。

国家間の争いというと、話が大きくなってしまいが、この根底には、個人同士の関係があるように思う。個人の対立が基盤となって、大きな争いを引き起こしているのではないか。したがって、問題を解決するには、並大抵のエネルギーではどうにもならない。逆に、一人一人が自分を見つめ直し、自分にできることは何か、自分はどうあるべきなのかを自分に問うことが求められる。地球は、丸くて一つ。この事実を直視したい。